

JR東海労ニュース

No. 921

2007年3月1日

JR東海労働組合

やっぱり本当だった！

『週刊現代』は組合費で買い支える！

**今後も『週刊現代』
の買い支えと、情報
化に取り組もう！**

これがユニオンの生きる道？
ユニオン『時事通信』

昔反権力。挫折して今や養殖・JR連合のお抱え
ブラックジャーナリストのKN氏。「JR連合・東
海ユニオンが組合費でたくさん買ってくれて助か
ったよ。これで『現代』が売れなきやもう俺もお
しまいだった」とぼやくことしきりの毎日。



次ページへ

第2次組織拡大月間に向けて

定期大会以降。国労から1名、東海労から2名拡大

東海労から2名の拡大！！

12月8日大阪第一運輸所、12月9日東京第二車両所から中堅組合員の勇氣ある加入があった。歓迎会も多くの仲間が駆けつけ盛大に開催された。加入してくれた新しい仲間も元気に仕事に励んでいる。加入に至るまで、加入後の対応など、関係する機関役員・組合員に敬意と感謝を申し上げたい。

「このまま東海労に居たのでは、何のために働いているのか分からない。まさに、カルト集団だ。」この言葉が良識ある組合員の心境を物語っている。まだまだ呪縛から解放されずにいる対象者が職場に存在している。

粘り強く加入を呼びかけていこう。

一方、国労東海の掲示板には、業務関係の掲示はあっても、組織関係の掲示はなく組織動向はよくわからない。国労にいただけで、一般組合員は組織に対して無気力である。「心を動かす」には時間がかかるが、特に40歳代のまだ10年以上現職で働く組合員に「このままでいいのですか」と声をかけていこう。

最終段階を向かえた組織の年である。重点分会を中心に対象者全員に声かけを実践していこう！以下、最近の他労組の動向について、参考にしていただきたい。

時事つうしん

NO8 06.12

JR東海ユニオン 本部組織部

他労組の動き

JR総連
JR東海労

■12月3日、JR東労組長野地本で「良くする会」に対抗するかのよう「健全なJR東労組長野地本を創る会」なるものが本部派組合員を中心に結成された。

この動きは、反本部派として前面に出ている長野地本潰しを狙ったものであることは推測できるが、大多数の長野地本組合員は、「創る会」には冷ややかな対応をしている状況のようである。前長野地本峰田委員長（良くする会代表）の影響が未だに持続しているとの情報も入っている。また、「良くする会」が来年2月を目処に「新組合結成」を視野にしているとの情報も入っているが、この真意は不透明である。総連・東労組内の主導権争いだとする分析が今のところは濃厚である※

■東労組脱退・退職強要事件公判は、12月21日で第55回目となった。今回の公判において、証拠調べは全て終了し次回（2月21日）にはいよいよ論告求刑が出される。

今後、4月に最終弁論が行なわれ、

来夏頃には結審となるもようである。この裁判の判決が、民主化闘争に大きな影響を与えることは周知のとおりである。

■民主党伴野衆議院議員が、12月8日衆議院議長に提出していた「質問主意書」（運輸安全マネジメントに関する）に対して、12月19日「内閣総理大臣・安倍晋三」の名で「政府答弁書」が回答された。

その内容には、『「脱退・退職強要事件」で逮捕された7人の中に革マル派活動家と見られる者がいる。引き続きJR総連・東労組内革マル派の動向に重大な関心を払っていく』としている。年明けの通常国会における論戦に注目である。

■12月25日、ユニオン沼津運輸区分会会長自宅に、海労本部中央執行委員他1名（沼津運輸区出身）が「質問書」なるものを持ってきた。

内容は、11月14日付のユニオン分会の情報に対しての質問と謝罪を求める内容である。そもそも、情報揭示から1ヵ月以上もたっていることから、何らかの力が働いたと想像できる。

（要旨）

1. 現在、JR総連などは、「週刊現代」の記事の事実は間違いであると裁判で争っている。何故に「週刊現代」を一方向的に正しい記事と判断したのかを明らかにされたい。
2. 揭示の記事を読めばカルト教徒が誰であるのかが一目瞭然である。…イラストの黒い顔の人物は誰を対象に書いたものなのか明らかにされたい。
3. 揭示は個人の誹謗・中傷以外のなものでもない。
などである。

ようするに、「週刊現代」第21回連載の、「JR総連組合員の本誌濫訴は、司法を悪用した言論封殺テロだ」の見出し記事で、ジャーナリストの有田芳生氏が「今回の訴訟乱発は、まさに『カルト以上のカルト』と言わざるを得ません。」とコメントし、「本人訴訟」の28人の内9人が、現役の運転士だというのだ。

つまり「カルト以上のカルト」集団の“信徒”が、JR東日本の山手線やJR東海の御殿場線、JR西日本の山陽本線の運転士として日々、乗務しているわけである。

の記事について、相当神経質になっている。当初、海労は、6回で連載が終わると豪語していたが、20回を超える連載になるとは思っていなかったようで、ボデーブローのようにじわじわ効き始めているようだ。

今後も「週刊現代」の買い支えと、情報化に取り組もう。

■12月8日最高裁第二小法廷は、平成3年、東京運輸所の不当労働行為の事件で、科長の発言が個人的な発言だったかどうかなどについて、さらに審理を尽くす必要があるとして、東京高裁に差し戻す判決を下した。

これに対して、海労は12月20日、謝罪文掲出行動と称して、東京第二運輸所に本部委員長、書記長らが、掲出を確認に押しかけたが、警察の出動要請になる騒ぎになったようである。この日は、朝から品川駅頭でピラ配り、東京第一、第二運輸所などへの行動、JR東海労による東京運輸所分会不当裁判、夕方には裁判勝利集会など、集中行動を実施したようである。

いずれにしても、脱退問題の矛先を最高裁の判決をよりどころに、組織の引き締めを図ることに必死である。